

Project Management Seminar Leadership Seminar Cultural Seminar

アドバイザーによるセミナー

プログラム中には、プロジェクトマネジメント、リーダーシップ、異文化理解についてのセミナーが、各分野の専門家であるアドバイザーによって行われ、全参加青年が受講します。ただ話を聞くだけでなく、参加青年がリーダーシップを発揮する機会もありました。

プロジェクトマネジメント・セミナー

金信 光恵

本セミナーでは、最初に、どのようにしてプロジェクトのリーダーになるか、どのようにして他のプロジェクトと差別化するかなどについて学びました。次に、数人の参加青年が、自分が達成したいと考えているプロジェクトについて、みんなの前で発表しました。インドで女性が生理用品を自動販売機で買えるようにしたい、ゲームやアクティビティを通じて言語を学べる新たな環境をつくりたい…など、発表者の想いを聞いて、私も胸が熱くなりました。セミナーにおいて特に印象に残ったのは「リーダーはプロジェクトに対して人一倍の情熱を見せること。そうでなければ人はついてこない」という言葉。プロジェクトは自分が夢中になれるもの、情熱を傾けられるものであることが大切だということ、プロジェクトを進めるうえで大切なことをたくさん学ぶことができました。



リーダーシップ・セミナー

大穂 正孝

このセミナーでは、”Everyone can be a leader”（すべての人はリーダーである）という考え方を軸として、「前面」からチームを引っ張るだけでなく、「側面」や「背面」からメンバーをサポートするのも現代のリーダーシップの在り方であることを学びました。

リーダーシップ・セミナー委員会では、セミナーで学んだことを活かすセッションを参加青年たちで企画・実施しました。私は委員会のリーダーを務めていたのですが、外国参加青年の英語力に圧倒され、チームをまとめるのに非常に苦労しました。しかしながら、自分が貢献できることを探し、メンバーにできる限りのサポートをすることで、セッションを成功させることができました。この経験は私にとって、リーダーシップとは何かを体感的に学ぶ最も貴重な機会でした。



異文化理解セミナー

金信 光恵

本セミナーでは、自分とは異なる文化やバックグラウンドを持つ人々と関わる時に大切なことを学びました。例えば「キャビンメイトが私の歯ブラシで歯を磨いていた」というような、「理解できない」と思うような行為を相手にされたとき、まずは否定的な解釈をするのではなく、相手の考え方でその行為をとらえ直し、「なぜ？」とその理由を聞けば相手の行為を理解できることがある、と教わりました。上記の例でいうと、南太平洋の島々では何でもシェアする文化があるそうです。服、お金、子ども、歯ブラシなどなど…。シェアする相手を兄弟・仲間だと見なしているため、彼らにとっては親愛の情に基づく行為なのです。勝手に自分の歯ブラシが使われ

ている状況に直面したとしても、頭ごなしに怒るのではなく、コミュニケーションを通して相手の真の意図を理解することが必要です。もちろん自分には自分の文化があるので、「そうしてほしくない」「こんなふうに思った」という自分の気持ちも相手に伝えることが大切なのです。これは、セミナーにおいて最も印象的な学びでした。

このセミナーのおかげで、様々な文化や価値観を受け入れる寛容性が身に付きました。





コロンボ (スリランカ)

平成 29 年度「世界青年の船」事業では、インドのコチとスリランカのコロンボに寄港し、大学訪問や現地学生とのディスカッション、課題別視察、各国の文化を紹介する歌やダンスの披露(ミニ・ナショナル・プレゼンテーション)などを行いました。

1 日目(2/15)

9:00
コロンボ港入港
9:30～10:30
入国手続き
10:30～11:00
SWYAA スリランカによるオリエンテーション
11:30～17:00
フリータイム
17:00
帰船
19:00～21:00
船上レセプション

2 日目(2/16)

9:00
出発
9:30～12:00
University of Colombo
での活動
コース・ディスカッションごとに学生とディスカッション
12:30～13:30
昼食(首相府 Temple Tree)
14:00～17:30
課題別視察(アーユルヴェーダ施設、高齢者介護センター、テレビ局など)
18:00～19:00
夕食(船内)
19:30～22:00
SWYAA スリランカ主催スリランカン・ナイト(岸壁にて)

3 日目(2/17)

9:00
出発
10:00～12:00
NYSC 訪問
ミニ・ナショナル・プレゼンテーションの披露
14:30
帰船
15:30～16:00
オープンシップ(船内見学)
16:00～18:00
出国手続き
18:00
出航

現地の人との交流は SWY ならではの

福田 知可

私はスリランカで現地の人たちと交流する中で、多様性と共生について学びました。2 日目に訪問したコロンボ大学では、現地学生と意見交換を実施。そこで「スリランカでは、多様な宗教や文化をお互いに尊重し、みんなが家族のように思っている」という考えを聞いて、異なるバックグラウンドを尊重し、人を思いやる優しさを感じました。

訪問国活動中は、スリランカの既参加青年の方々と交流する機会にも恵まれました。フリータイムには、彼らにスリランカの歴史的背景を解説してもらいながら寺院を訪れ、よりリアルな視点で見聞を深めることができました。また、交流を通して発見したのは「笑顔」が持つパワーです。現地の大学生、既参加青年、街中のスーパーで働く人たち、みんな笑顔にあふれていて、気持ちが明るくなりました。私も彼らのように、広い心を持ち、笑顔を決やさす、周りに幸せをもたらせるような人になりたいと思いました。

現地の学生や既参加青年と話す機会が多く設けられている SWY だからこそ、その国についてより深く知ることができ、視野を広げることができたと考えています。



スリランカの青少年 サポートに感銘

寺尾 光平

2 日目午後の課題別視察では、SWY とも関係が深い、青少年のリーダーシップを育成する「Sri Lanka Federation of Youth Clubs」を訪問。運営スタッフの方々に話しかけたり、青年とリーダーシップに関して質問したりして、組織の仕組みや沿革、取り組みを学びました。また、「環境問題について考えていきたいが、そのためには先進国で学ぶ必要がある」「Youth Club で毎日楽しく過ごしているが、もっと自発的に何かしなければいけないと感じている」といった、スリランカの青年たちが抱える悩みや夢についても話を聞きました。

Sri Lanka Federation of Youth Clubs の取り組みの中には、スポーツイベントの企画・運営、障がい者への支援、青年雇用問題の解決などもあり、青少年に関する総合的なサポートを提供する枠組み・規模の大きさに脱帽しました。



スリランカの児童問題に ついて理解を深めた

寺浦 立紗

2 日目午前中に University of Colombo を訪問し、「子どもの人権コース」では、スリランカと各参加国における児童問題や国際人権条約の内容など、スリランカから見た世界の子どもの人権についてクイズ形式で学びました。

多様な民族が暮らすスリランカが抱える児童婚という問題についても、ゲームを通して考えました。宗教上の理由により、一部の地域では今も幼い子どもたちが結婚・出産している現状を、スリランカの学生たちが丁寧に説明してくれ、全体で理解を深めました。

コロンボ大学の学生が、ディスカッションのために様々な準備と工夫をしてくれていたため、とても有意義な時間を過ごすことができ、また笑顔であふれる交流の場となりました。





1 日目(2/11)

9:00
コチ港到着、入国手続き
11:00～11:45
SWYAA*インドによる
オリエンテーション
12:40～14:40
昼食(ケララ州政府主催)
15:15～16:30
フリータイム
17:00
帰船
19:00～21:00
船上レセプション(歓迎
パーティー)

*SWYAA=SWY Alumni
Association 既参加青年で
構成される事後活動組織

2 日目(2/12)

9:00
出発
10:00～16:30
Cochin University of
Science and Technology
での活動
コース・ディスカッショ
ンごとに現地学生とディ
スカッション
ミニ・ナショナル・プレ
ゼンテーションの披露
17:30
帰船
19:00～
インド政府による
ディナー

3 日目(2/13)

9:00
出発
10:00～12:00
課題別視察(伝統武術
の道場、劇場、ビジネ
ススクール、海洋大学
など)
14:30～16:00
フリータイム
16:00～18:00
出国手続き
18:00
出航

コチ(インド)

初めて英語でのファシリ テーションに挑戦

小野田 杏菜

2 日目午前中は CUSAT で大学生
とのディスカッション。私はコー
ス・ディスカッション運営委員を
務めていたのですが、現地の大学
側か私たち側かどちらがディス
カッションをファシリテートする
のか、事前には知らされていま
せんでした。いざという時のため、準
備をして当日に臨みました。
大学に着くと、私たちがファシリ
テートするということがわかり、準
備していた SDGs に関するアイ
スブレイク、各国の国際協力活動の
シェアなどを行いました。場面ごと
にディスカッション委員で役割を
分担し、私は最後の振り返りを一部
ファシリテートすることに。英語で
のファシリテーションは初めての
経験で、上手くはできませんでし
たが、色々なことを話してもらえ
るような質問・投げかけができた
という手ごたえはありました。このよ
うなチャンスがもたらえたこと、そ
して委員のメンバーやコースのみな
が支えてくれたことに、感謝の気持
ちでいっぱいになりました。
船の外で自分が新しいチャレンジ
をしたことで、あらためて委員や
コースのメンバーとのチームワー
クが形成されていたんだなあと思
感しました。



あらためて多様性について 考える機会に

馬場 絵里加

訪問国活動で特に印象に残っている
のは 2 日目です。Cochin University of
Science and Technology (CUSAT)
を訪れ、午前中は現地の学生とディ
スカッションを行いました。
私が所属していた「自他をエンパワ
メントする対話コース」では、まず現
地学生とペアになり、自分たちが勉
強していることや将来の夢などを語
り合いました。その後、全体でお互
いの出身国に対するステレオタイプ
を共有したり、自分の夢を発表し
て、それに関連する勉強をしている
学生とのコネクションを見つけたり
しました。短い時間での活動では
したが、異なるバックグラウンド
を持つ学生との対話を通じて自
身の知識や経験を共有することで、
新たな視点が得られ、多様性を特
徴とする SWY ならではの有意義な
時間を過ごしました。
午後のミニ・ナショナル・プレゼン
テーションではソーラン節を披露。
インドで自国の文化を発表できる
貴重な機会であったため、ワクワク
しながら取り組みました。
現地の文化に触れ、現地の人々と
交流するなかで、今まで自分が当
たり前だと思っていたことや十分
に知っているつもりでいたこと
でも、異なるコミュニティに身
を置くとまた違った捉え方が
できるようになり、船上とは異
なる環境下であらためて「多
様性」について考える 1 日とな
りました。



特別支援学校での発見

田垣内 義浩

3 日目の課題別視察で、私はコチの特別
支援学校を訪れました。日本でも何
度かボランティアや介護体験で特
別支援学校を訪れたことがあり
ましたが、視察では興味深い発見
がありました。まず、基本は日本の
学校と変わらないということです。
ダンスを披露してくれた際に、一
人ひとりの生徒が自分のできる
ことに精一杯取り組んでいて、個
性を存分に発揮できる場となっ
ていることは日本の特別支援学校
と同じであると感じました。2 つ
めは、教師が生徒たちを奥深くま
で理解しているということです。
授業では、生徒ひとり一人に対し
少し異なる課題を与えていて、
生徒がどれだけの課題ならこな
すことができるのかということ
を意識していることがうかがえ
ました。そのほか、生徒たちのク
オリティの高いダンスの発表も
見学できたりするなど、充実した
課題別視察となりました。

